

昔むかし、あるところに、年とつた女の人がいて、息子がひとりありました。息子の名前は、ジャックといました。

あるとき、王さまが、こんなおふれを出しました。

「姫が答えることのできないようななぞなぞを知っている者がいれば、姫と結婚させよう」

ジャックは、お母さんにいいました。

「ぼく、お城に行つて来るよ。なぞなぞなんて知らないけれど、途中で何か思いつくかもしれないから」

お母さんは、腹を立てて、毒入りのケーキを三つ焼いて、お弁当に持たせました。

ジャックは、ろばのトムをつれて出かけました。途中でお腹がすいたので、お弁当を食べようと、ケーキを取り出しました。ところが、うっかり、地面に落としてしまいました。すると、ろばのトムがケーキを食べてしまいました。トムは、毒に当たつて死んでしまいました。

ちようどそこへ、からすが七羽飛んできて、トムの肉をついばみました。すると、からすたちも死んでしまいました。

そのとき、藪の中でガサゴソ音がしました。ジャックは、鉄砲をぶっぱなしました。藪をのぞくと、ぶたが死んでいました。ぶたのお腹をさくと、こぶたが三匹出て来ました。

ジャックがお祈りを唱えると、どこからともなくたき火が燃えだしました。ジャックはたき火でこぶたを焼いて食べました。

トムを引きずつて歩いて行くと、川岸に出ました。ジャックは、死んだトムを川に投げ込んで、トムにつかまつて向こう岸にわたりました。

ジャックは、疲れたので、りんごの木の下にこしを下ろしました。見上げると、そのりんごは金のりんごでした。そこで、木の根元を掘ってみると、金のかたまりが出て来ました。

ジャックは、にやつと笑っていました。

「しめた。うまいなぞなぞができたぞ」

お城に着くと、ジャックはお姫さまの前に出ていいました。

「三つがトムを殺しちゃった

トムは七つを殺しちゃった

目に見えないものをうち

神の言葉によつて焼いちゃった

生まれなかつた者を食べ

死んだ者が生きている者を運んだ

木の枝はあまくつて

根はそれよりもっとあまい
なあんだ」

お姫さまは、このなぞなぞが解けませんでした。そこで、ジャックは、お姫さまと結婚して、幸せに暮らしましたとさ。

原話…『世界の民話3 1カリブ海』瀬戸武彦・伊藤富雄・持尾伸二訳／ぎょうせい
再話…村上郁